

# 林木遺伝子銀行110番

## — 地域で親しまれている老樹の後継樹を後代に残す —

### 1. 林木遺伝子銀行110番

学校や神社など身近な場所には、人々に親しまれ地域のシンボルとなっている天然記念物や巨樹・名木などの老樹があります。時には厳しい環境にも耐えながら生きてきたこれらの樹木は、環境の変化に対する適応性や病虫害への抵抗性に優れている可能性があり、林木の遺伝資源(遺伝の機能的な単位をもつ植物、動物や微生物などに由来する素材のうち、現実のまたは潜在的な価値を持つもの。【生物多様性条約より】)としても貴重です。

林木遺伝子銀行110番は、枯損などで失われる前に所有者らの要請により、貴重な老樹を遺伝資源として保存するとともに後継樹を地域に里帰りさせることを目的とし、親木と同じ遺伝子を持つクローン苗木をつぎ木やさし木で増殖する取組です。平成15年の開始以来これまでに306件の要請があり、このうち229件で増殖した後継樹が里帰りしました(令和3年3月末現在)。以下に、わたしたちが担当する関東育種基本区における令和3年度の事例を紹介します。

### 2. 「<sup>はごろも まつ</sup>羽衣の松」(三代目)



写真1 羽衣の松  
写真提供:(一財)三保松原保全研究所

このクロマツは、日本三大松原のひとつである<sup>みほのまつばら</sup>三保松原(静岡県静岡市清水区)の景観を形成しているマツ独特の樹形(樹高が低く、枝が垂れ横に伸びている)を持ち、その枝に天女が羽衣をかけたと伝えられています。この巨樹(樹高・約14m、幹の直径・約1.2m)は、推定樹齢が250~300年にも達しているために静岡県から平成27年12月に後継樹の増殖が依頼されました。そこで温室内でつぎ木を実施し5本の後継樹を育成することができました。このうちの2本は、令和4年1月28日に静岡県に里帰りを果たし、名勝三保松原100周年特別展として静岡市三保松原文化創造センター「みほしるべ」で令和4年2月27日まで展示されました。また、残りの3本は、貴重な林木の遺伝資源として保存されます。



写真2 里帰りする「羽衣の松」の後継樹の引き渡し

### 3. おわりに

つぎ木やさし木による増殖方法は、スギやヒノキなどの主要な造林樹種や園芸樹種を除いて、ほとんどの樹木では確立されていません。林木遺伝子銀行110番では試行錯誤を重ねながら、さまざまな樹種の後継樹をつぎ木やさし木で増殖しています。このような経験はわたしたち職員の増殖技術の向上にもつながっています。これからも広く社会に<sup>ひえき</sup>裨益する業務として取り組んでいきます。

(遺伝資源部 探索収集課 弓野 奨)